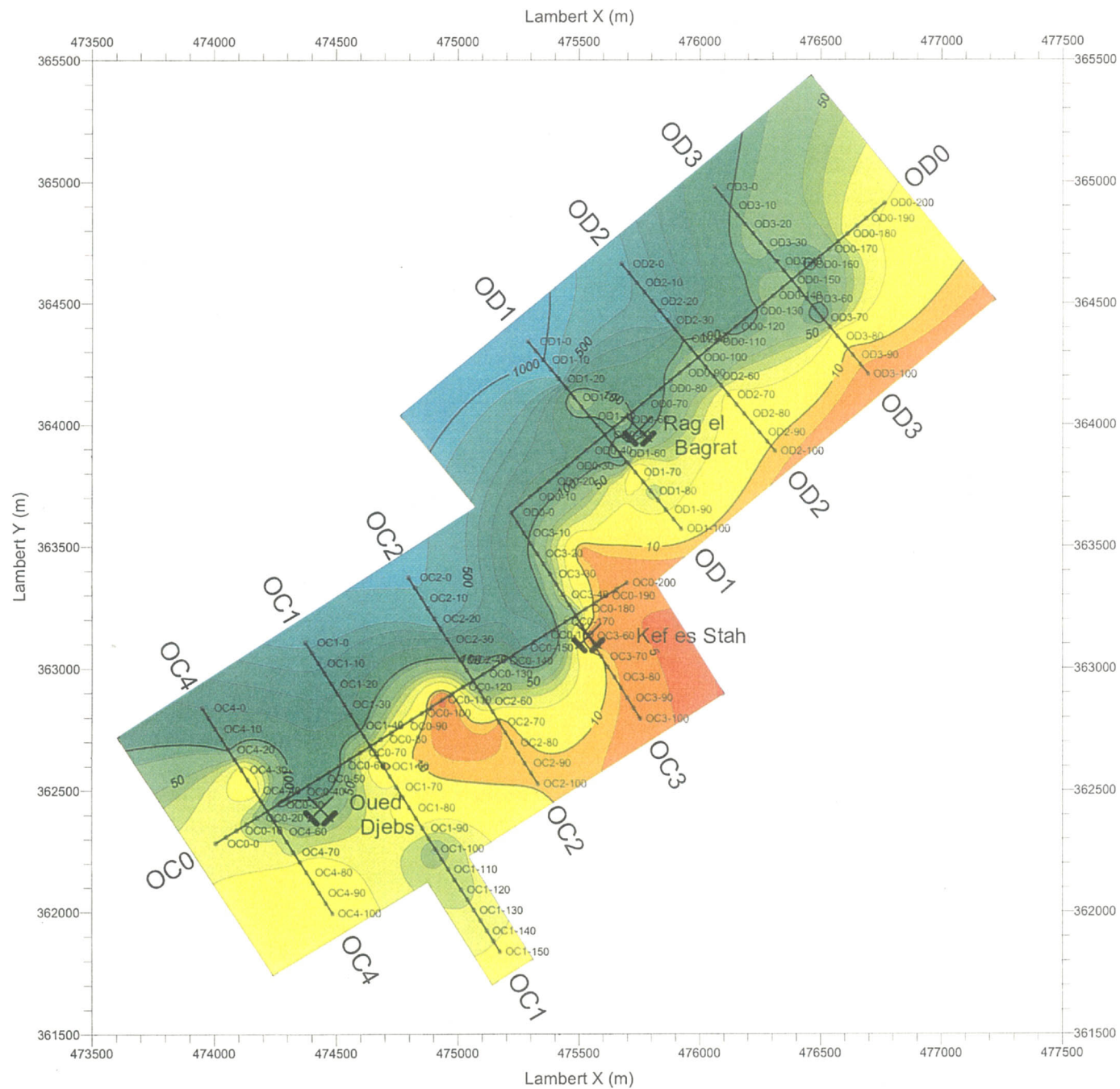


Legend

- Profiles for IP and Gravity survey
- Stations
- Ancient Works
- Apparent Resistivity (ohm·m)

(Scale 1:25,000)

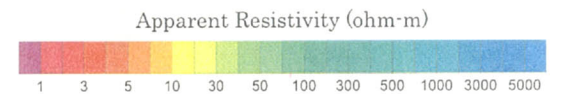
図 76 ウェド・ジェブス OC・OD 地区  
見掛比抵抗平面図 (n=1)



Legend

— Profiles for IP and Gravity survey  
 ○ Stations

✕ Ancient Works



(Scale 1:25,000)

図 77 ウェド・ジェブス OC・OD 地区  
 見掛比抵抗平面図 (n=2)

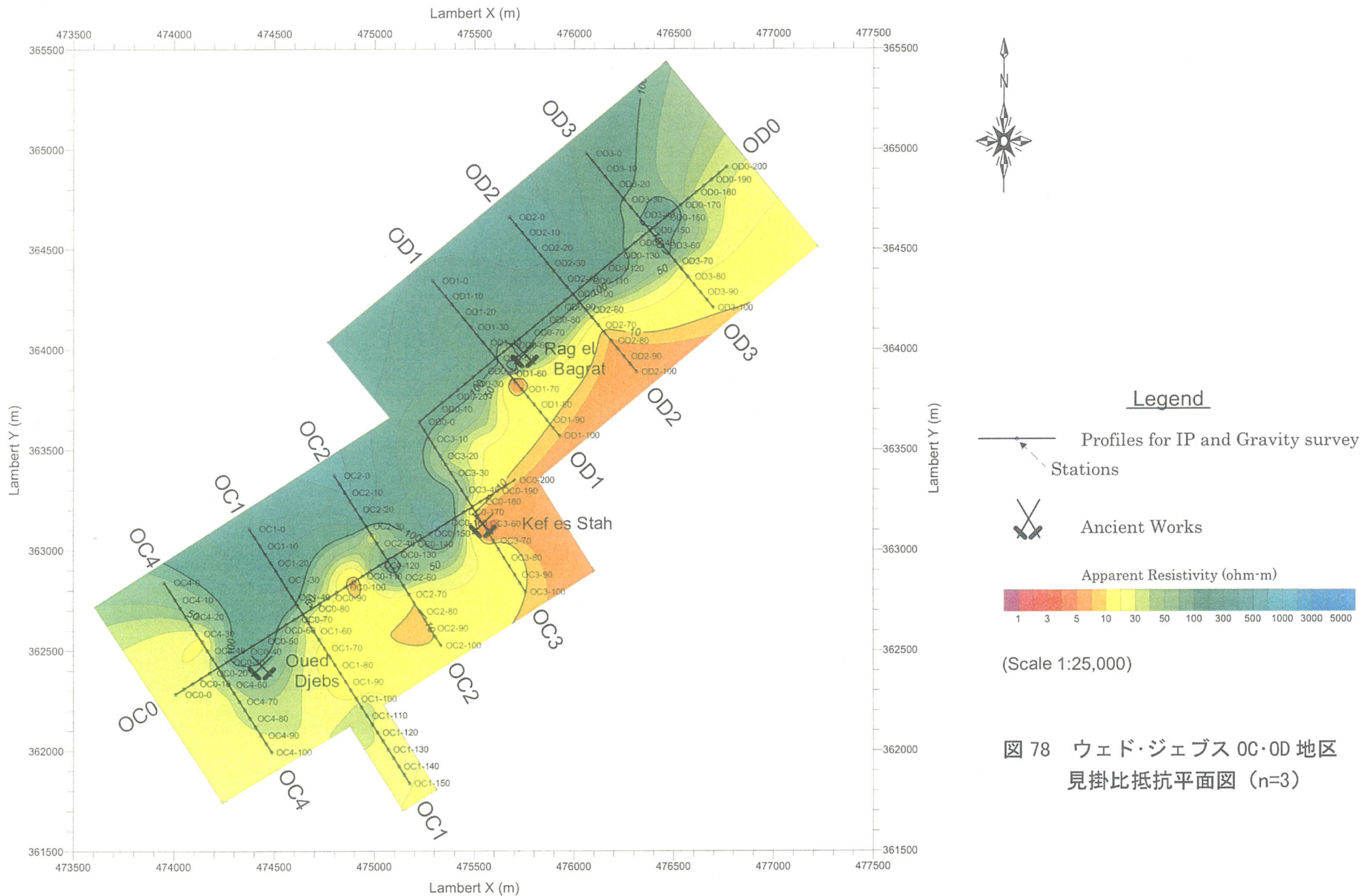
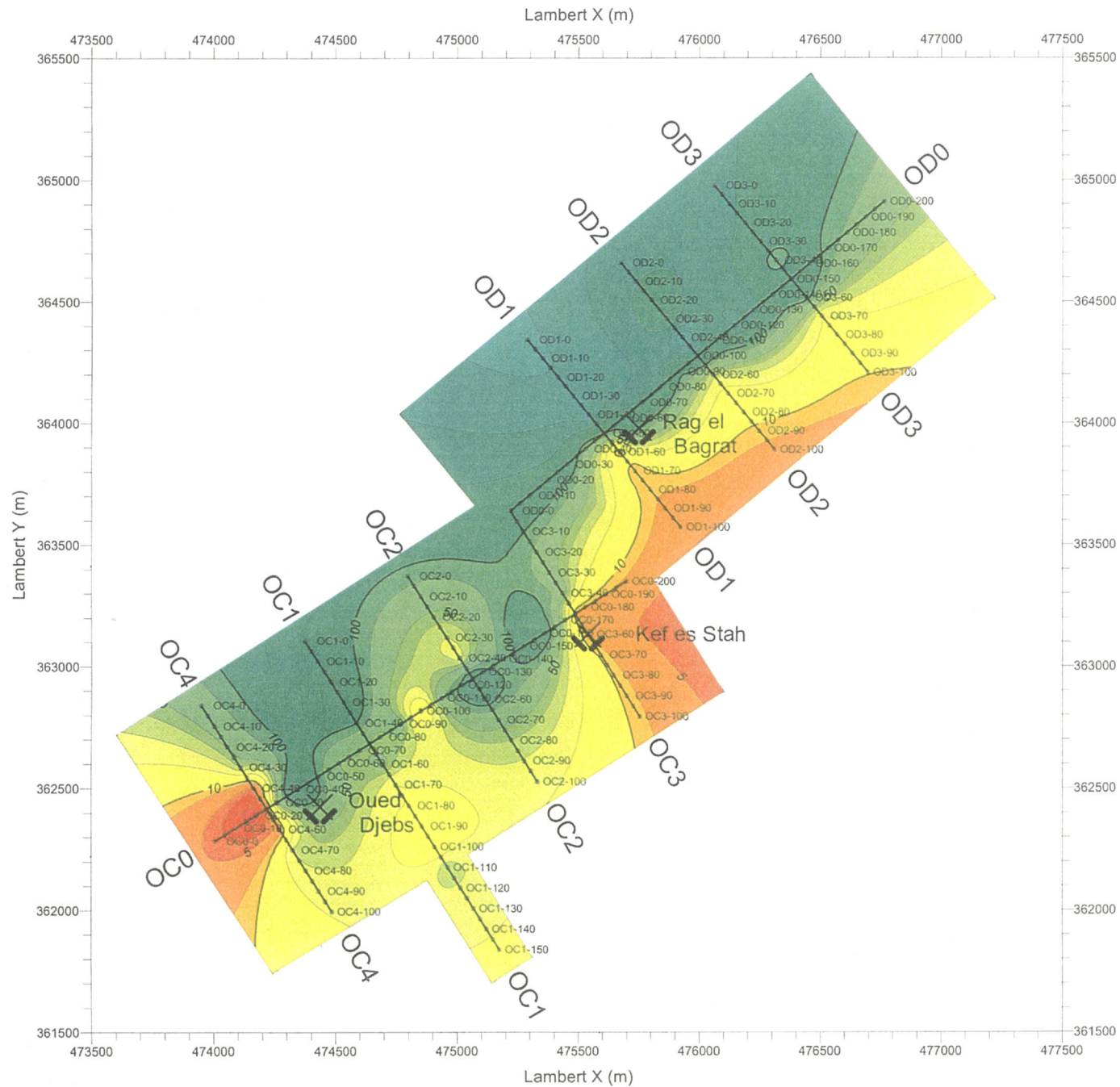


图 78 ウェド・ジェブス OC・OD 地区  
見掛比抵抗平面図 (n=3)





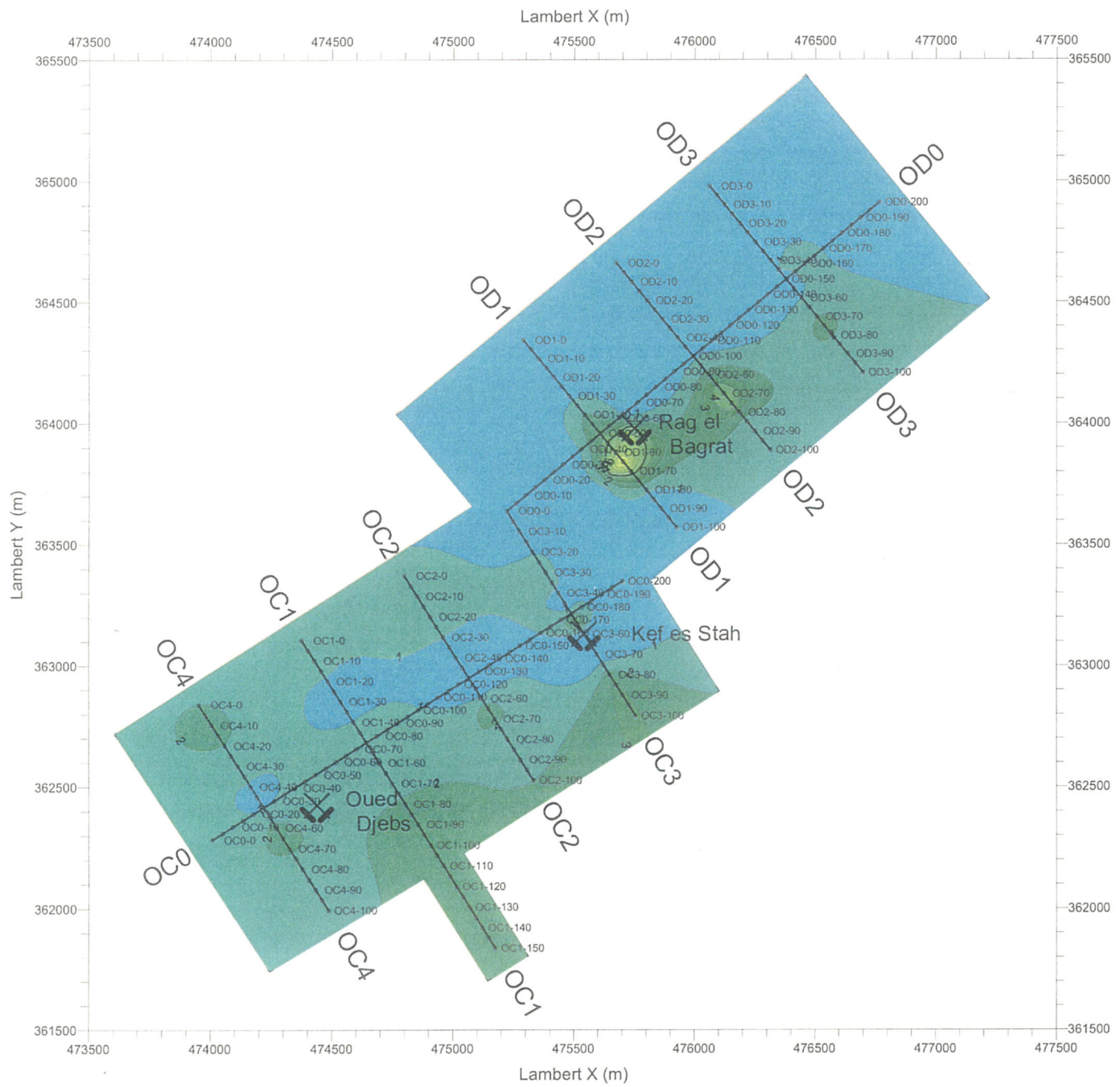
Legend

- Profiles for IP and Gravity survey
  - Stations
  - Ancient Works
  - Apparent Resistivity (ohm-m)
- 1 3 5 10 30 50 100 300 500 1000 3000 5000

(Scale 1:25,000)

图 79 ウェド・ジェブス OC・OD 地区  
見掛比抵抗平面図 (n=4)



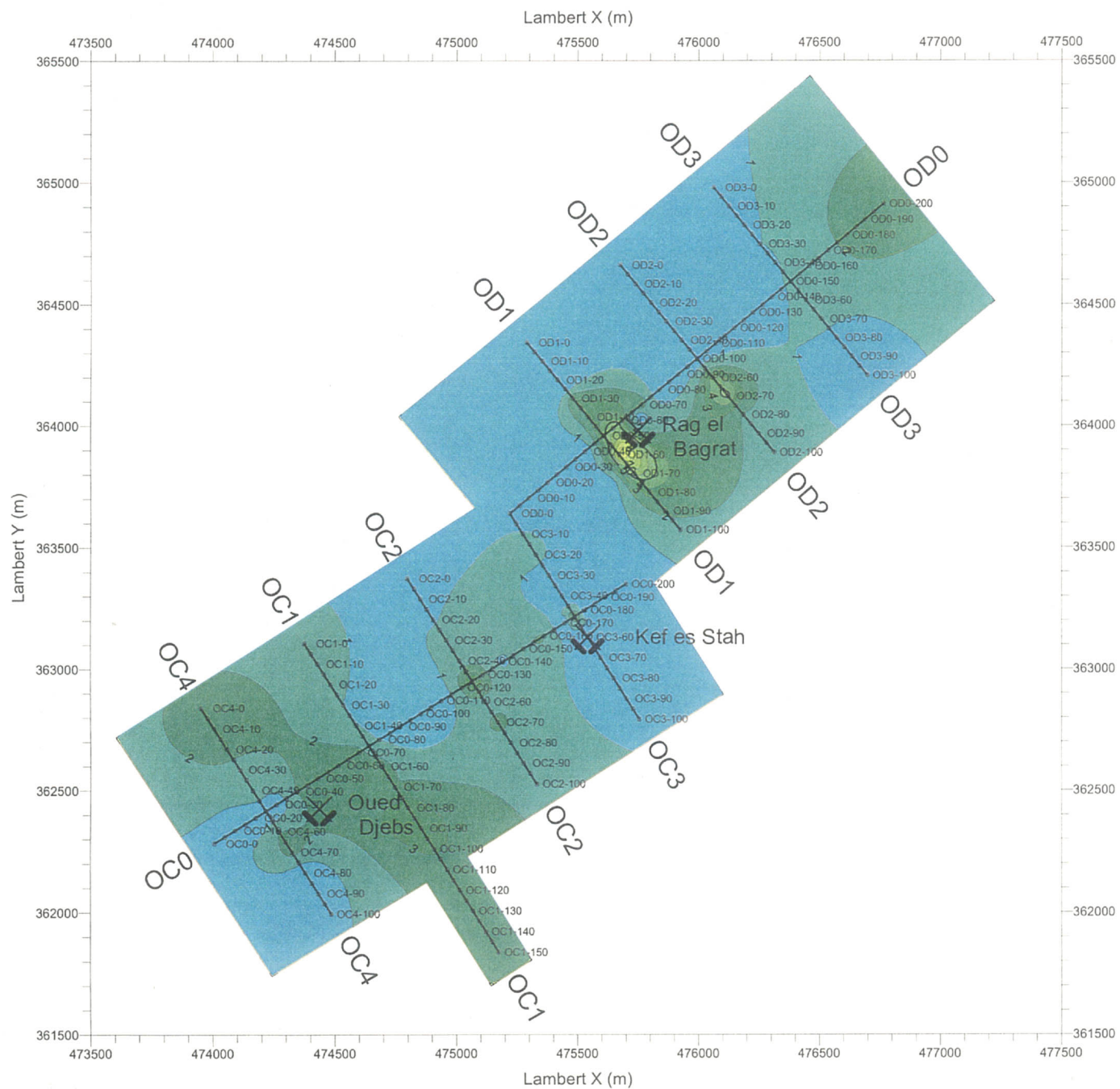


**Legend**

- Profiles for IP and Gravity survey
  - Stations
  - Ancient Works
  - Chargeability (mV/V)
- 

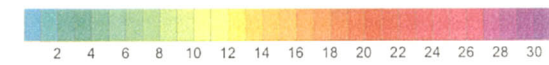
(Scale 1:25,000)

図 80 ウェド・ジェブス OC・OD 地区  
分極率平面図 (n=1)



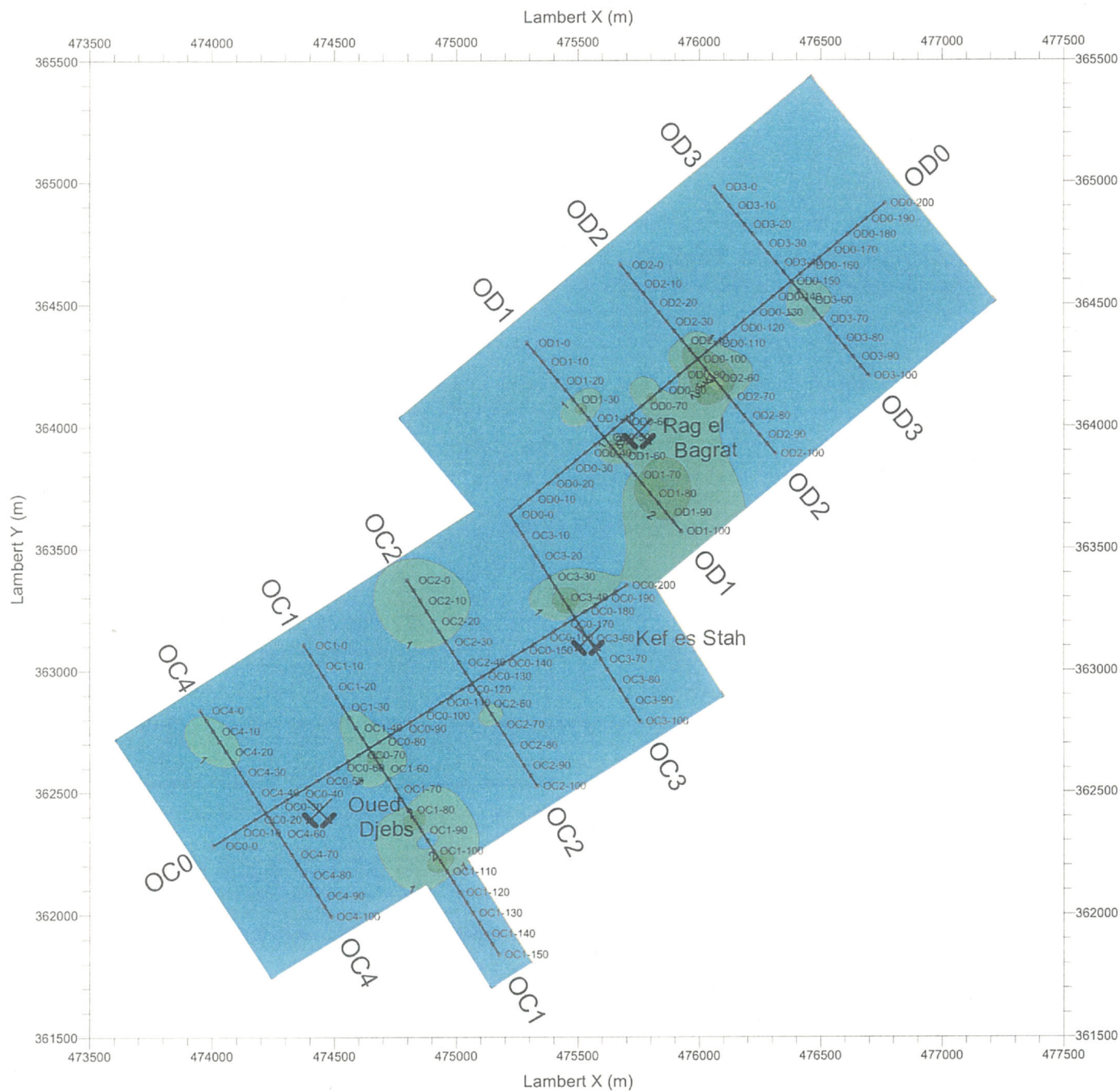
Legend

- Profiles for IP and Gravity survey
- Stations
- Ancient Works
- Chargeability (mV/V)







(Scale 1:25,000)

図 81 ウェド・ジェブス OC・OD 地区分極率平面図 (n=2)



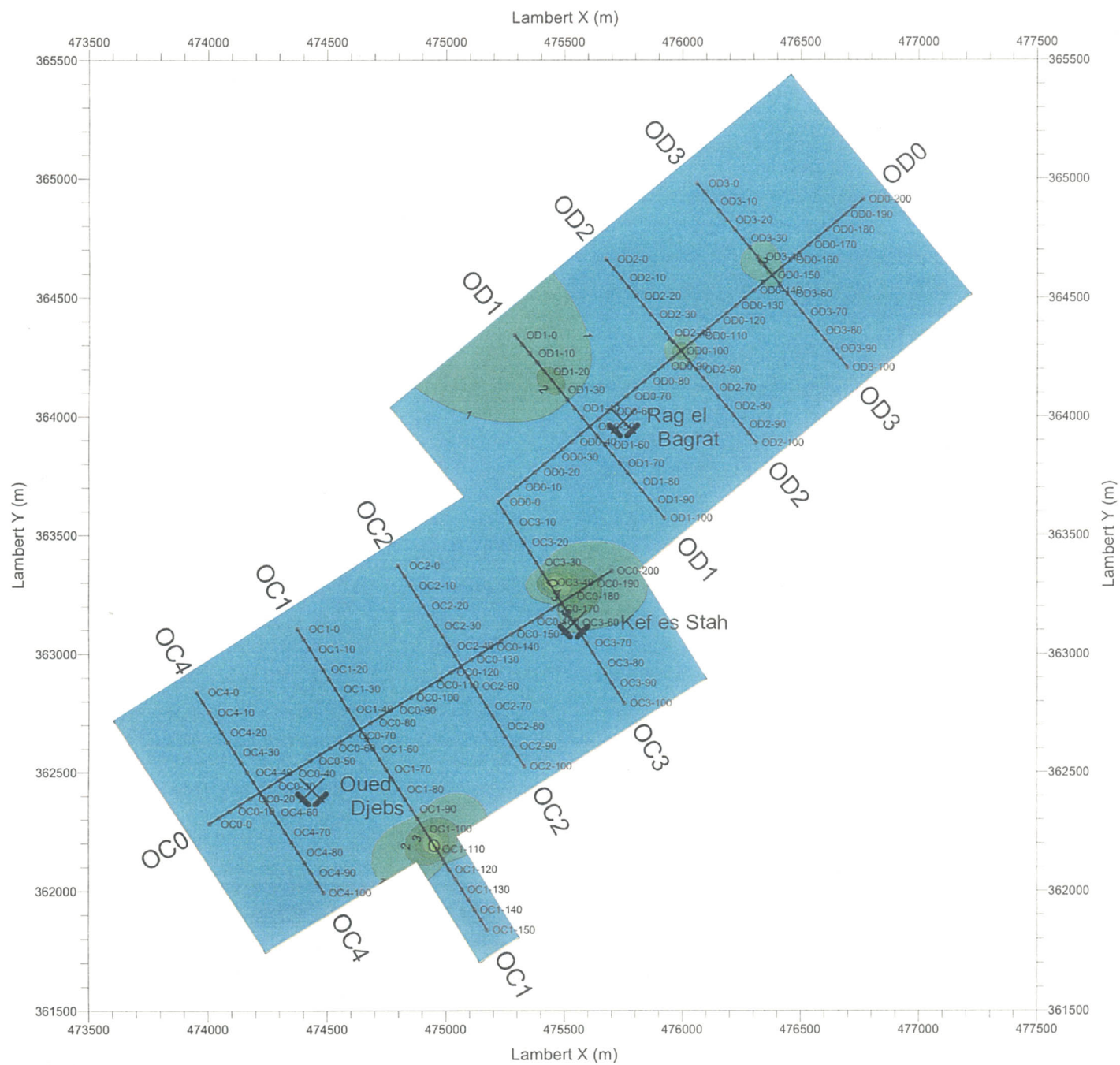
Legend

-  Profiles for IP and Gravity survey
-  Stations
-  Ancient Works
-  Chargeability (mV/V)  
2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26 28 30

(Scale 1:25,000)

図 82 ウェド・ジェブス OC・OD 地区  
分極率平面図 (n=3)





Legend

- Profiles for IP and Gravity survey
- Stations
- Ancient Works
- Chargeability (mV/V)  
2 4 6 8 10 12 14 16 18 20 22 24 26 28 30

(Scale 1:25,000)

図 83 ウェド・ジェブス OC・OD 地区  
分極率平面図 (n=4)

OC3-100 付近には 5mV/V 以上の小さな測定分極率異常が現れた。

(c) 解析比抵抗及び分極率断面(図 84~100)

(i) OA 地区

① OA0 断面(図 84)

Bou Mous 丘陵の丘陵軸を通り、南西から北東に向かって OA 地区を縦断する断面である。主として白亜系分布域を通るため、 $50\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗を示す範囲が広い。断面南西部 OA0-0~50 付近の浅部、中央部 OA0-80~110 付近の深部、OA0-140 付近深部から OA0-180 付近浅部及び北東部 OA0-200~240 付近の深部には  $100\Omega\text{m}$ 以上の大きな高比抵抗異常がある。断面南西端深部には  $30\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が分布し、Bou Mous 鉱徴地周辺の OA0-60~70 付近と断面中央部 OA0-170~180 では  $30\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が深部から浅部に向かって伸びている。

断面南西部 Bou Mous 鉱徴地周辺の OA0-40~80 付近は 5mV/V 以上の弱い分極率異常があり、OA0-60 付近の深部にはウェド・ジェブス地区では最も強い 10mV/V 以上の分極率異常となっている。

② OA2 断面(図 85)

Bou Mous 丘陵南西部で北西から南東に OA 地区を横断する断面である。断面北西部 OA-20 付近から中央部の OA2-60 にかけて  $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗が広がる。この高比抵抗は三畳系のドロマイト又は白亜系石灰岩に対比できると考えられる。OA2-20~30 付近の表層にある  $30\Omega\text{m}$ 程度の低比抵抗は三畳系の泥を表していると考えられる。断面南東部 OA2-70~90 付近には第三系に対比できると考えられる  $30\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。この低比抵抗異常と前述の高比抵抗境界部は断層状に比抵抗が不連続となっている。

断面南西部 Bou Mous 鉱徴地周辺の OA2-30~OA0-50 付近には 4mV/V 以上の極弱い測定分極率異常が広がっている。

③ OA3 断面(図 86)

Bou Mous 丘陵の中央部を北西から南東に向かって OA 地区を横断する断面である。断面中央部に  $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常があり、 $20\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が取り囲んでいる。断面北西端にも三畳系ドロマイトと考えられる  $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常がある。

本断面に優位な測定分極率異常は認められない。

④ OA4 断面(図 87)

OA3 断面の北東 500mを北西から南東に向かって OA 地区を横断する断面である。基線と交差する中央部の OA0-150 より北西は  $100\Omega\text{m}$ 以上の白亜系石灰岩と三畳系に対比される高比抵抗が分布する。OA4-60 より南東は  $20\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が分布し、OA4-80 付近は  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗となっている。OA4-60 付近では比抵抗が不連続となっている。

本断面にも優位な測定分極率異常は認められない。

(ii) OB 地区

① OB0 断面(図 88)

Dar Chebka から Bou Rahal にかけての丘陵部の北西麓を南西から北東方向に OB 地区を縦断する断面である。断面中央部を除くと  $30\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が広く分布する。第三系の

分布する断面南西端から OB0-60 付近の浅部にかけて  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が広がる。中央部の OB0-100~110 付近及び OB0-170~190 の深部にも  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。中央部 OB0-70~100 付近の浅部には  $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常があり、その南西側の OB0-40~70 付近の深部にも  $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常がある。前者の高比抵抗異常は三畳系分布域に相当する。断面北東端の白亜系分布域では比抵抗が高くなる傾向がある。

断面北東端の白亜系分布域で分極率が高くなる傾向がみられる。

#### ② OB2 断面(図 89)

OB 地区の南西部を北西から南東に横断する断面である。断面南東部の OB2-80~120 には  $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常が広がる。中央部の OB2-60 付近表層と北西部の OB2-10~20 付近には  $50\Omega\text{m}$ 以上の小さな高比抵抗異常がある。基線と交差する OB2-40~60 付近と中央部 OB2-70 から断面南東端にかけての表層には  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が広がる。後者の低比抵抗異常は第三系の分布域に対比され、前者は間隙が海水並みの低比抵抗を示す塩水で満たされた砂層の可能性がある。

断面北西端と南東部 OB2-140 付近の深部に  $5\text{mV/V}$ 以上の弱い分極率異常がある。

#### ③ OB3 断面(図 90)

OB 地区の中央部を北西から南東に横断する断面である。断面中央部 OB3-60 付近の表層から OB3-100 付近の深部にかけて  $50\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常が広がる。この前述の高比抵抗異常は三畳系に相当すると考えられる。断面南東部 OB3-120~140 付近の深部にも  $50\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常があり、北西部の OB3-30 にも  $100\Omega\text{m}$ 以上の小さな高比抵抗異常がある。OB2 断面と同様、基線と交差する OB3-30~OB3-60 付近と南東部の OB3-90~140 付近の表層には  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が広がる。

断面南東部 OB3-90~120 付近の深部には  $5\text{mV/V}$ 以上の分極率異常が広がっている。

#### ④ OB5 断面(図 91)

OB 地区の北東部で Dar Chebka 鉱徴地を通過して北西から南東に横断する断面である。前述の OB3 断面と同じような比抵抗分布を示し、全般に OB3 断面より比抵抗は低い。三畳系が分布する断面中央部の OB5-60 付近の表層から南東部 OB5-130 の深部にかけて  $50\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常が延びている。基線と交差する OB0-150 付近を中心に北西部の深部と南東端の表層には  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。

分極率も OB3 断面と同じような分布を示す。断面中央部 OB0-150~OB5-120 付近にかけての深部に  $5\text{mV/V}$ 以上の分極率異常が広がり、Dar Chebka 鉱徴地付近ではこの分極率異常が浅部まで上がってきている。

### (iii) OC 地区

#### ① OC0 断面(図 92)

Jebel el Mourhra 丘陵西部の Oued Jebb 鉱徴地と中央部の Kef Lasfar 鉱徴地を通過して、南西から北東に OC 地区を縦断する断面である。断面全般に  $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗が広がる。断面北東部 OC0-140~170 付近の深部には  $500\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常がある。断面中央部 OC0-80~120 付近の表層には  $20\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。北東端には  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常があり、高比抵抗分布域との境界部は断層を示唆するような比抵抗不連続線



となっている。これらの低比抵抗異常は第三系の分布域に対応する。

Kef Lasfar 鉍徴地に近い断面北東端付近で分極率が高くなる傾向がある。Oued Jebbs 鉍徴地周辺には分極率異常は認められない。

② OC1 断面(図 93)

Jebel el Mourhra 丘陵西部で北西から南東へ OC 地区を横断する断面である。OC1-40 から北西は  $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗異常が広がっている。中央部の OC1-60~80 付近には  $20\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗異常が浅部から深部に向かって延びている。

断面南東部 OC1-80~130 の深部には  $5\text{mV/V}$  以上の弱い測定分極率異常がある。

③ OC2 断面(図 94)

OC 地区の中央部を北西から南東に横断する断面である。断面北西端から中央部 OC2-70 の深部にかけて  $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗が分布し、三畳系分布域に対応する。断面中央部の OC0-75 の浅部から南東は  $20\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗が分布し、第三系分布域に対応する。

断面中央部に  $5\text{mV/V}$  以上の弱い測定分極率異常があるものの有意な異常とは認められない。

④ OC3 断面(図 95)

Jebel el Mourhra 丘陵中央部の Kef Lasfar 鉍徴地を通過して北西から南東へ OC 地区を横断する断面である。断面南東部の OC3-70 付近の浅部から OC3-90 付近の深部にかけて  $10\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗異常が延びている。この低比抵抗異常の標高  $150\text{m}$  付近から北東に向かって  $10\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗が横方向に延びている。断面北西部の OC3-10 付近、Kef Lasfar 鉍徴地に近い OC3-60 付近の表層部及び断面南東端の表層部には  $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗異常がある。

Kef Lasfar 鉍徴地のある OC3-60 付近の浅部には  $6\text{mV/V}$  以上の分極率異常がある。

⑤ OC4 断面(図 96)

Jebel el Mourhra 丘陵西部で北西から南東に OC 地区を横断する断面である。OC4-10 から北西と断面南東端には  $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗異常がある。断面中央部 OC4-40~80 付近の深部には  $10\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗が広がっている。

本断面に有意な分極率異常は認められない。

(iv) OD 地区

① OD0 断面(図 97)

Jebel el Mourhra 丘陵北東部の Rag el Bagrat 鉍徴地を通過して南西から北東へ OD 地区を縦断する断面である。断面北東端にある  $20\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗異常を除くと、 $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗の範囲が広がる。中央部の OD0-80 付近では  $100\Omega\text{m}$  以下の相対的な低比抵抗異常が高比抵抗分布域を分断している。

Rag el Bagrat 鉍徴地のある断面中央部の OD0-50~110 付近では  $4\text{mV/V}$  以上の弱い分極率異常が広がっている。

② OD1 断面(図 98)

Jebel el Mourhra 丘陵北東部の Rag el Bagrat 鉍徴地を通過して北西から南東へ OD 地区を横断する断面である。断面南東部の OD1-80~90 付近にある  $10\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗異常があ

る。この低比抵抗異常以外は  $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗が広がる。

断面中央部 OD1-50~80 付近には  $5\text{mV/V}$  以上の分極率異常が広がり、OD1-70 付近の浅部は  $9\text{mV/V}$  以上の OD 地区の中では強い測定分極率異常がある。

③ OD2 断面(図 99)

Jebel el Mourhra 丘陵北東部で北西から南東へ OD 地区を横断する断面である。第三系が分布する断面南東端の  $20\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗異常を除くと、 $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗が広く分布する。

断面南東部 OD2-70~80 付近には  $5\text{mV/V}$  以上の分極率異常がある。

④ OD3 断面(図 100)

OD 地区の北東縁部を北西から南東へ横断する断面である。OD2 断面同様、南東端付近の  $20\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗異常を除くと、 $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗が広く分布する。

本断面には有意な分極率異常は認められない。

(d) 解析比抵抗・分極率平面(図 101~118)

(i) OA 地区

① OA 地区解析比抵抗平面図 標高 50m(図 101)

基線 OA0 付近の北西側には  $50\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗が分布し、南東側には  $30\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗が分布する。Bou Mous 鉱徴地周辺は  $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗異常に囲まれた相対的な低比抵抗異常となっている。

② OA 地区解析比抵抗平面図 標高-50m(図 102)

標高 50m の解析比抵抗平面図と同様に、基線 OA0 付近の北西側には  $50\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗が分布し、南東側には  $30\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗が分布する。測線 OA2 及び OA3 では、 $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗異常の分布範囲が広がり、基線よりも南東に高抵抗が張り出している。Bou Mous 鉱徴地周辺では、OA0-120 付近から OA3-20 付近へ延びる  $50\Omega\text{m}$  以下の低比抵抗異常に代表されるように、E-W 方向を示唆する比高抵抗分布が多くなっている。

③ OA 地区解析比抵抗平面図 標高-150m(図 103)

標高-50m とほぼ同じような比抵抗分布を示すが、比抵抗は全般に低くなっている。Bou Mous 鉱徴地は E-W 方向に延びる  $100\Omega\text{m}$  以上の高比抵抗異常の南縁部に位置する。

④ OA 地区解析分極率平面図 標高 50m(図 104)

OA 地区南西部の Bou Mous 鉱徴地付近の OA0-30~80 付近には、基線 OA0 に沿って  $5\text{mV/V}$  以上の分極率異常が NE-SW 方向に延びている。

⑤ OA 地区解析分極率平面図 標高-50m(図 105)

標高 50m の解析分極率平面図とほぼ同じような分極率分布を示す。OA 地区南西部の Bou Mous 鉱徴地付近にある  $5\text{mV/V}$  以上の分極率異常の範囲が広がっている。

⑥ OA 地区解析分極率平面図 標高-150m(図 106)

標高-50m の解析分極率平面図と同じような分極率分布を示す。OA 地区南西部の Bou Mous 鉱徴地付近にある  $5\text{mV/V}$  以上の分極率異常の範囲がさらに広がり、基線 OA0 の南西端にまで達している。

(ii) OB 地区

① OB 地区解析比抵抗平面図 標高 50m(図 107)

OB 地区中央部の OB2-100 付近～OB5-60 付近には  $50\Omega\text{m}$ 以上の大きな高比抵抗異常があり、OB0-40 付近にも  $50\Omega\text{m}$ 以上の大きな高比抵抗異常がある。これらの高比抵抗異常を取り囲んで  $30\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗が広く分布する。基線 OB0 の南西端、測線 OB2 及び OB5 の南東端には  $30\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。基線 OB0 に沿って、OB2-30 付近、OB0-120 付近、OB0-150 付近及び OB0-180 付近には  $10\Omega\text{m}$ 以下の小さな低比抵抗異常が点在する。

② OB 地区解析比抵抗平面図 標高-50m(図 108)

標高 50mの解析比抵抗平面図の中央部にあった  $50\Omega\text{m}$ 以上の大きな高比抵抗異常が東部の Dar Chebka 鉱徴地付近まで広がっている。基線 OB0 南西端と測線 OB2 南東端には  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。基線 OB0 に沿って点在する  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が標高 50mの解析比抵抗平面図に比べて大きくなっている。

③ OB 地区解析比抵抗平面図 標高-150m(図 109)

OB 地区中央部に広がる  $50\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗異常は南から OB3-110 付近に延びる  $50\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常によって 2 つに分けられている。Dar Chebka 鉱徴地は東部の高比抵抗異常の中にある。この深度でも基線 OB0 南西端と測線 OB2 南東端には  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。標高-50mの解析比抵抗平面図では基線 OB0 に沿って点在していた  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が、基線 OB0 の北西側を NE-SW 方向に延びる 1 つの大きな低比抵抗異常になっている。

④ OB 地区解析分極率平面図 標高 50m(図 110)

基線 OB0 北東端、測線 OB2 北西端及び Dar Chebka 鉱徴地北側の OB3-100～OB5-110 付近には  $5\text{mV/V}$ 以上の弱い分極率異常がある。

⑤ OB 地区解析分極率平面図 標高-50m(図 111)

標高-50mの解析分極率平面図と同様に、測線 OB2 北西端には  $5\text{mV/V}$ 以上の弱い分極率異常がある。基線 OB0 北東端と及び Dar Chebka 鉱徴地付近の  $5\text{mV/V}$ 以上の分極率異常が広がって、1 つの大きな異常になっている。この分極率異常の中心は OB3-110 付近から Dar Chebka 鉱徴地の北側にかけてである。

⑥ OB 地区解析分極率平面図 標高-150m(図 112)

標高-50mの解析分極率平面図と同じような分極率分布を示す。OB 地区東部の大きな  $5\text{mV/V}$ 以上の分極率異常はさらに大きくなっている。この大きな分極率異常の中でも Dar Chebka 鉱徴地の北西側では  $7\text{mV/V}$ 以上の分極率を示している。

⑦ OC・OD 地区解析比抵抗平面図 標高 250m(図 113)

基線 OC0、測線 OC3 及び基線 OD0 より北西側は  $100\Omega\text{m}$ 以上の高比抵抗が広く分布し、三畳系の分域に対応する。基線 OD0 北東端から測線 OD3 及び OD2 の南東端に連なる  $10\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常がある。この低比抵抗異常の南西側は高比抵抗分布域の南縁に沿って  $20\Omega\text{m}$ 以下の低比抵抗異常が OC4-70 付近まで断続的に続いている。Oued Jebb, Kef Lasfar 及び Rag el Bagrat の 3 つの鉱徴地は、いずれも高比抵抗分布域と低比抵抗異常の境



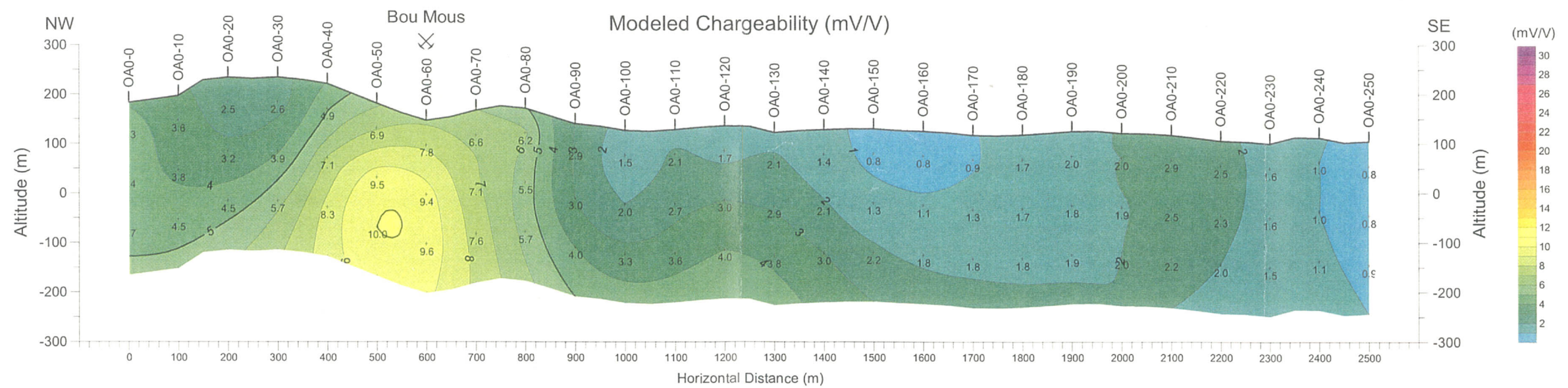
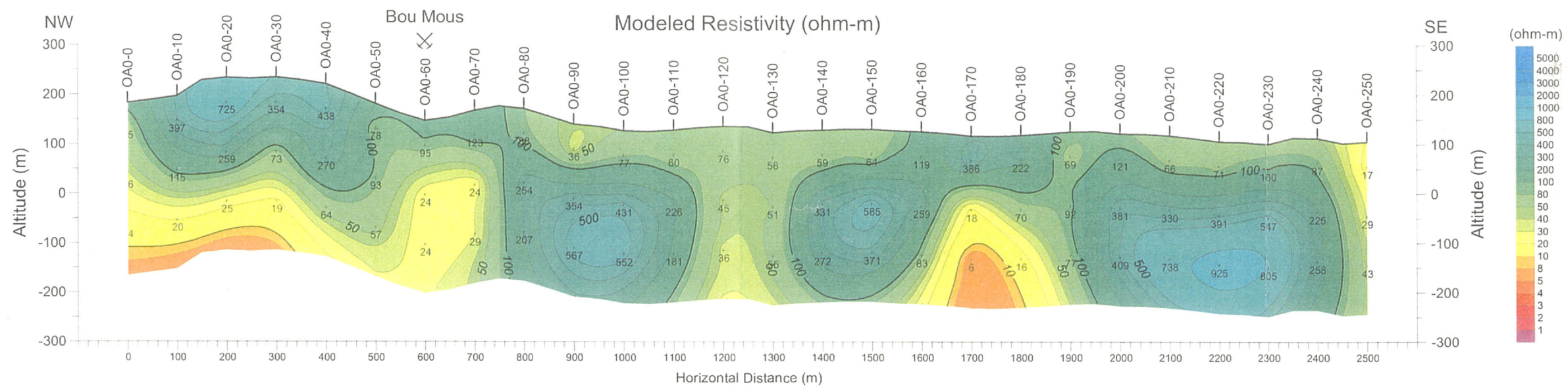


図 84 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (基線 OAO)

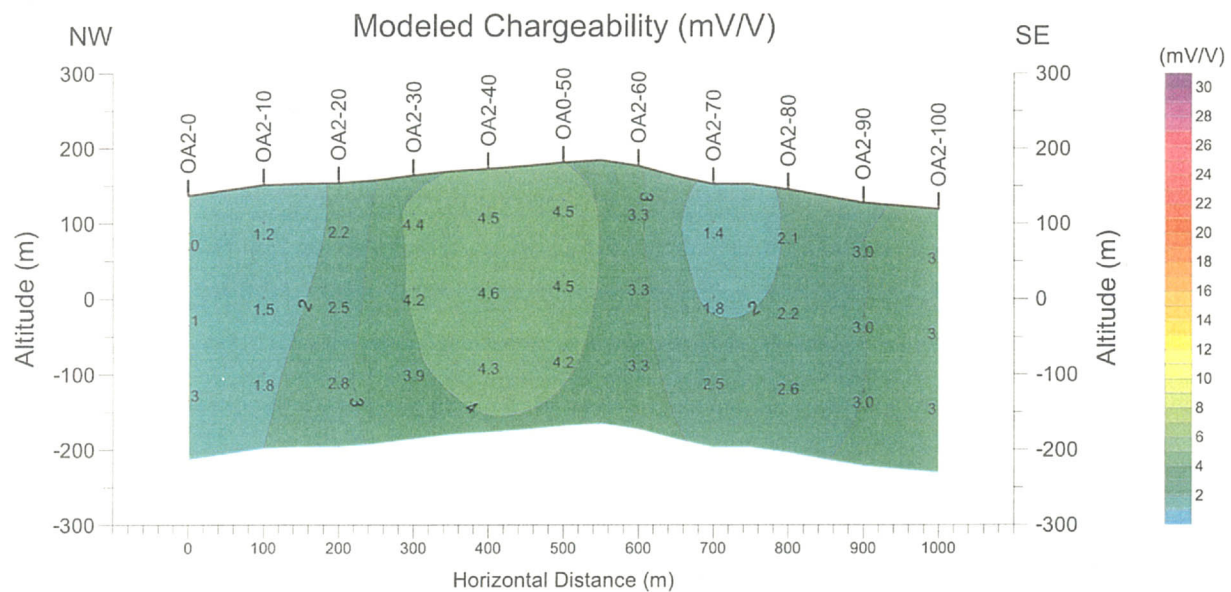
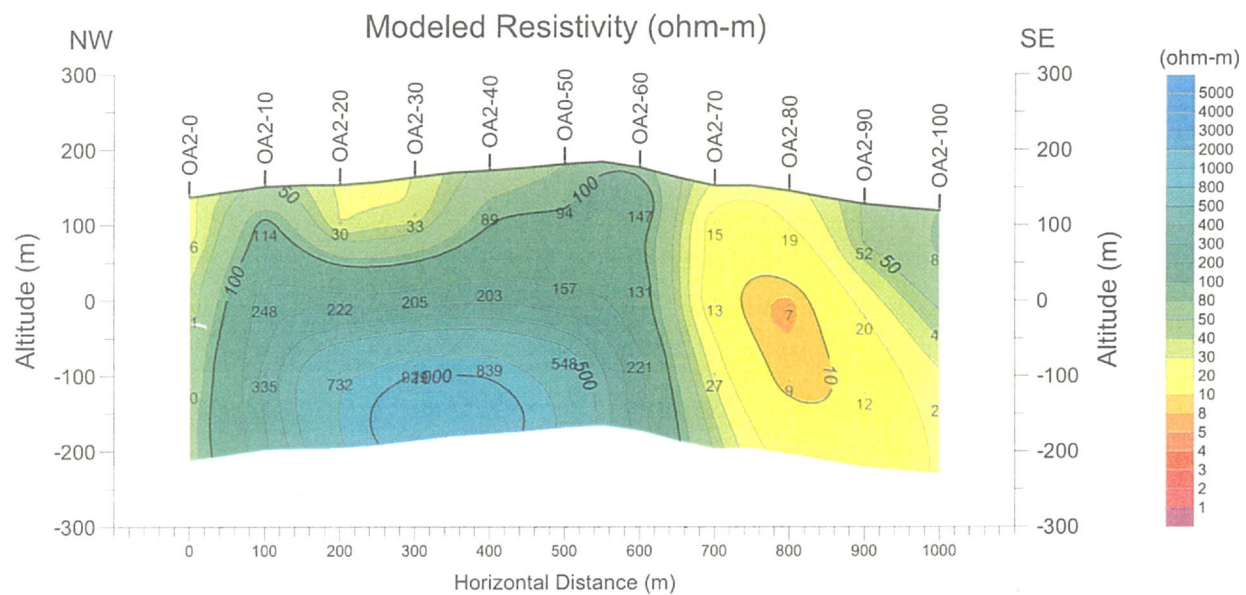


図 85 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 OA2)



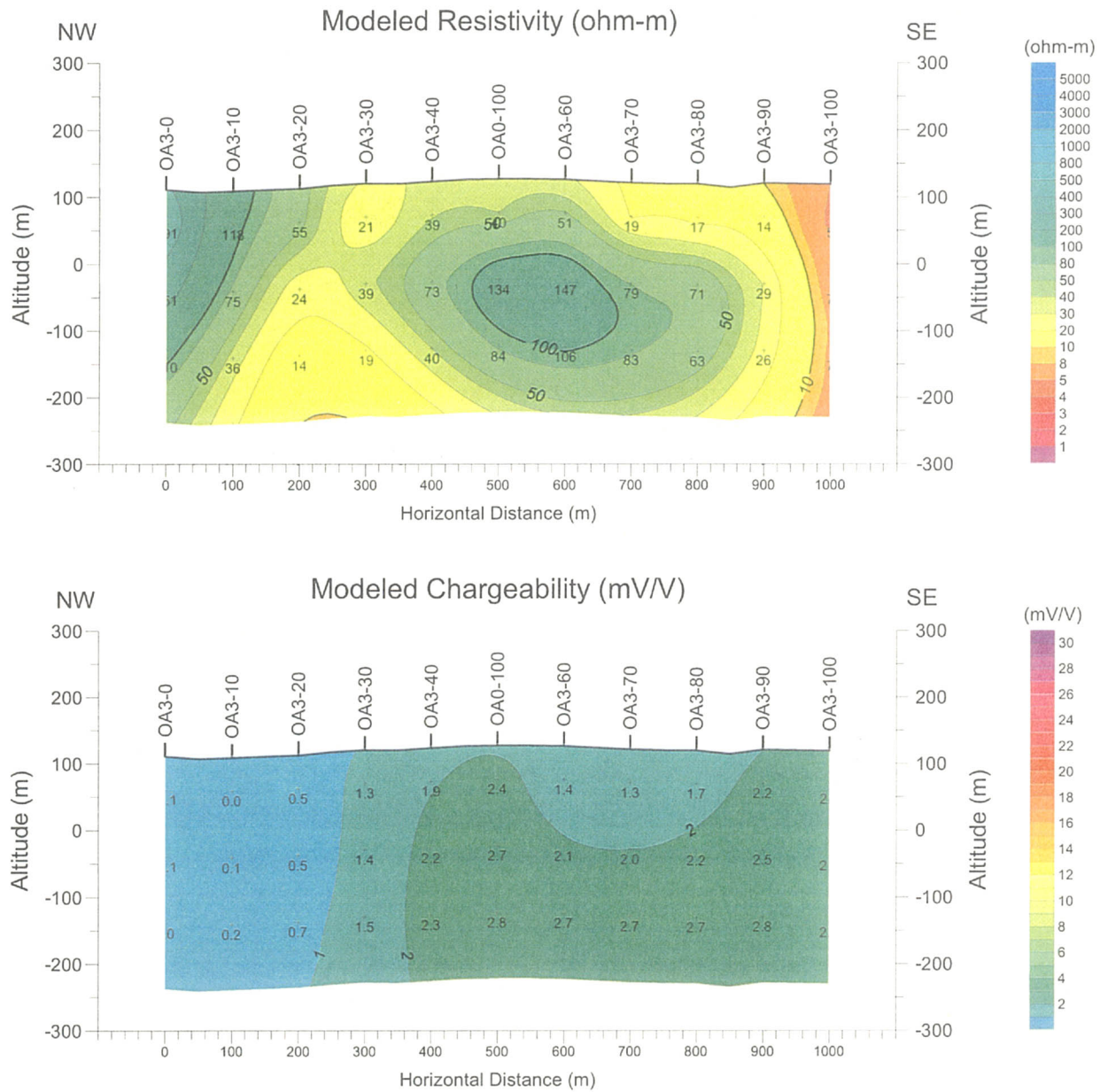


図 86 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 OA3)



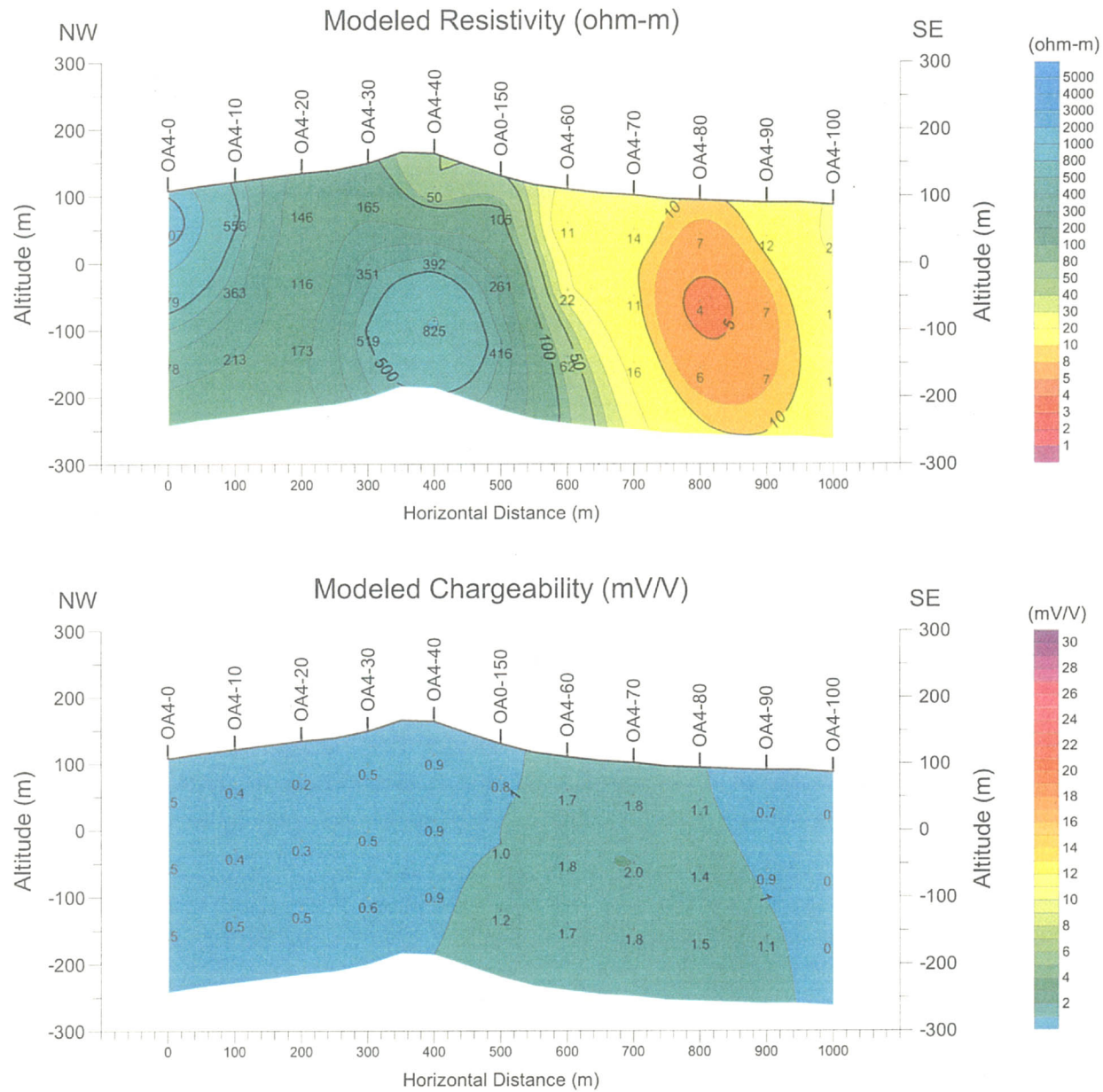


図 87 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 OA4)

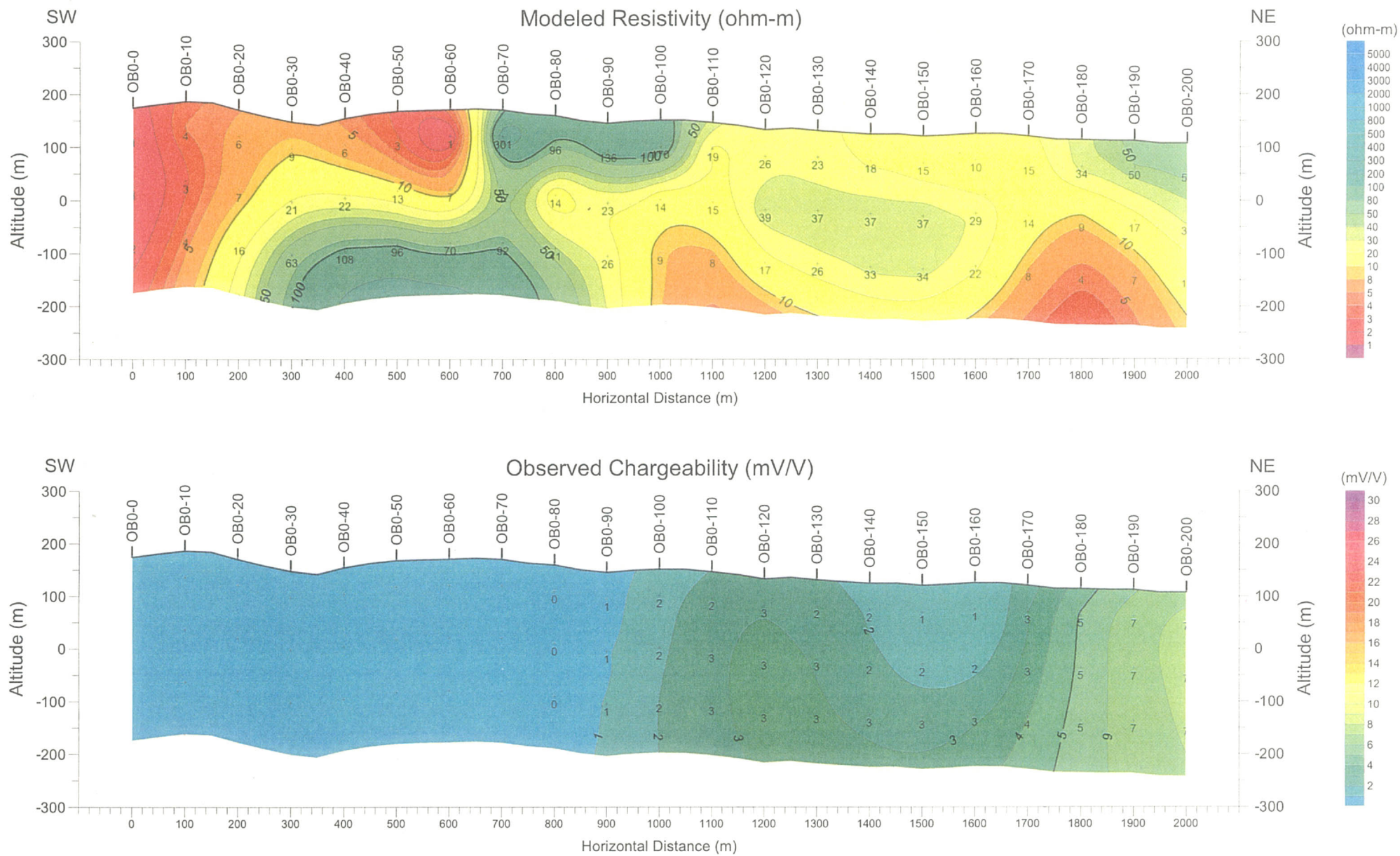


図 88 比抵抗・分極率シミュレーション断面図（基線 OB0）



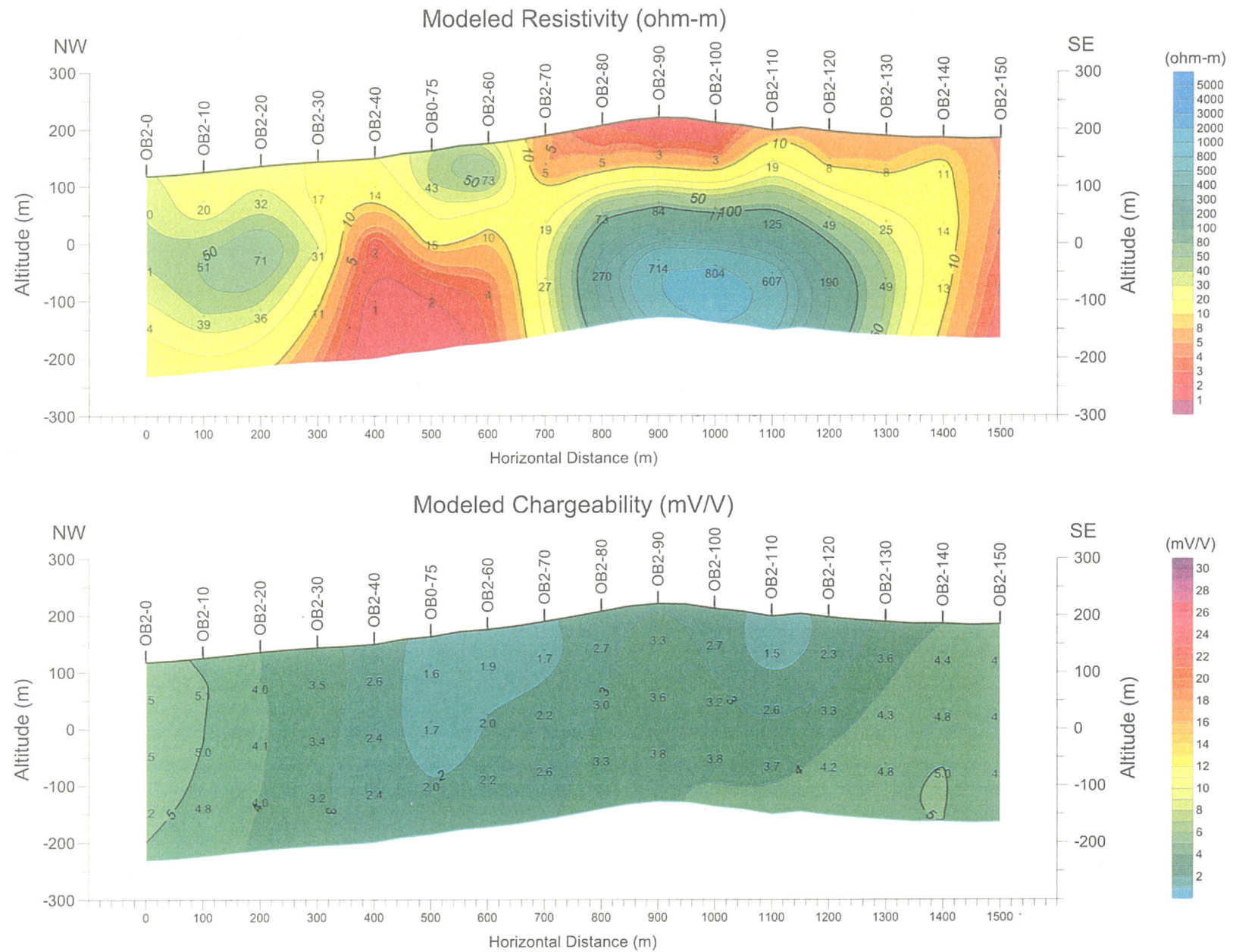


図 89 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 OB2)

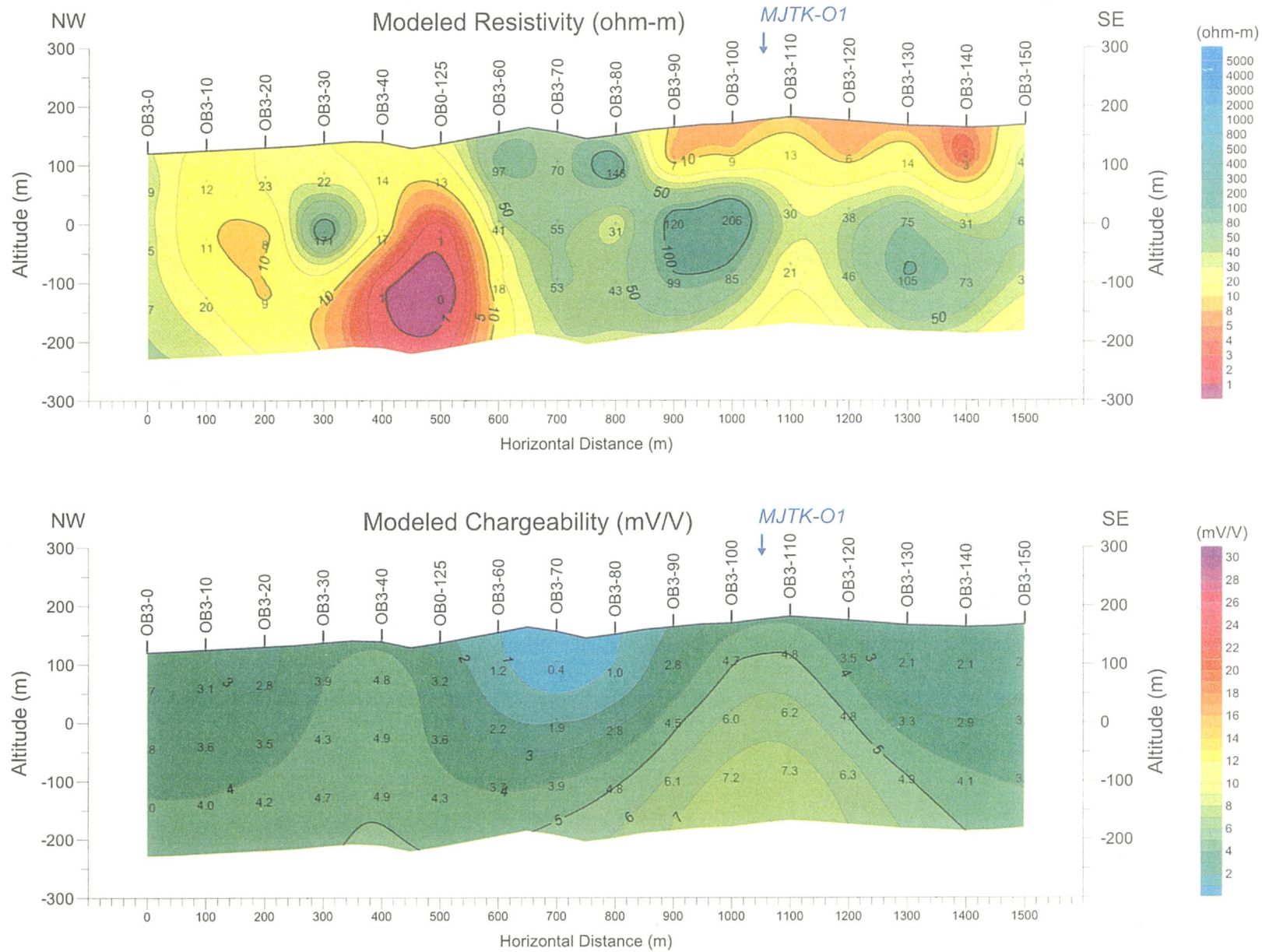


図 90 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 OB3)



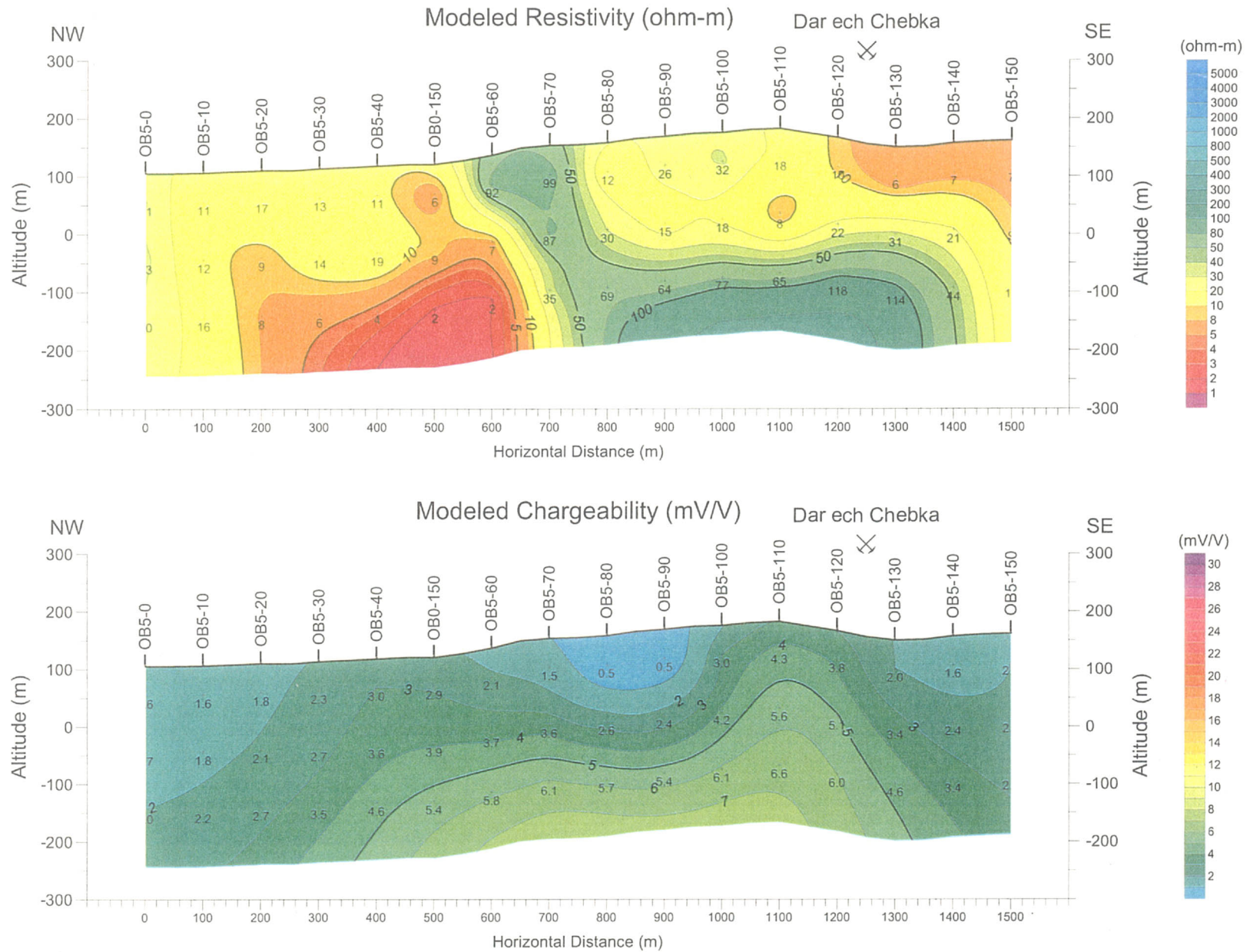


図 91 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 OB5)

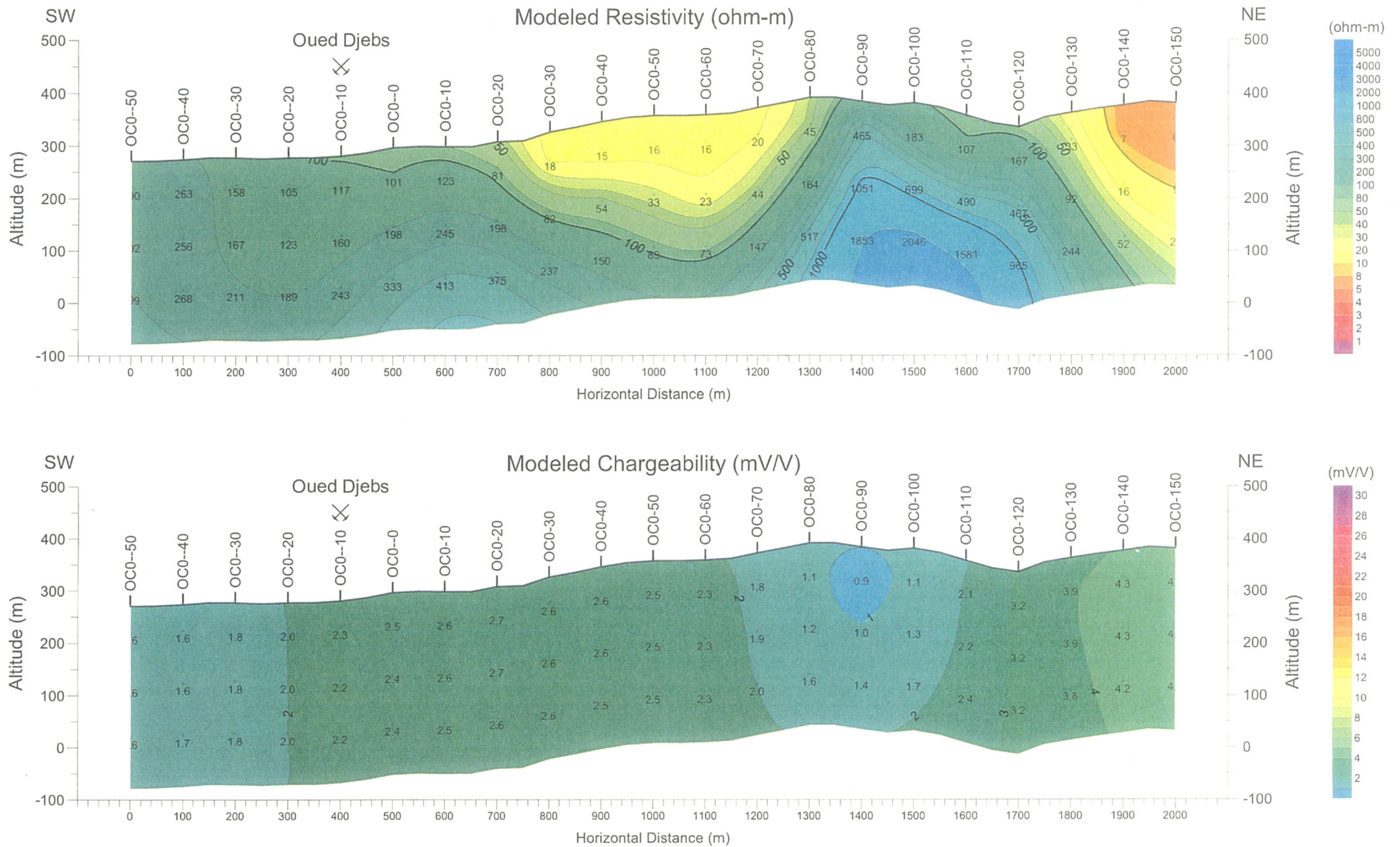


図 92 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (基線 OCO)



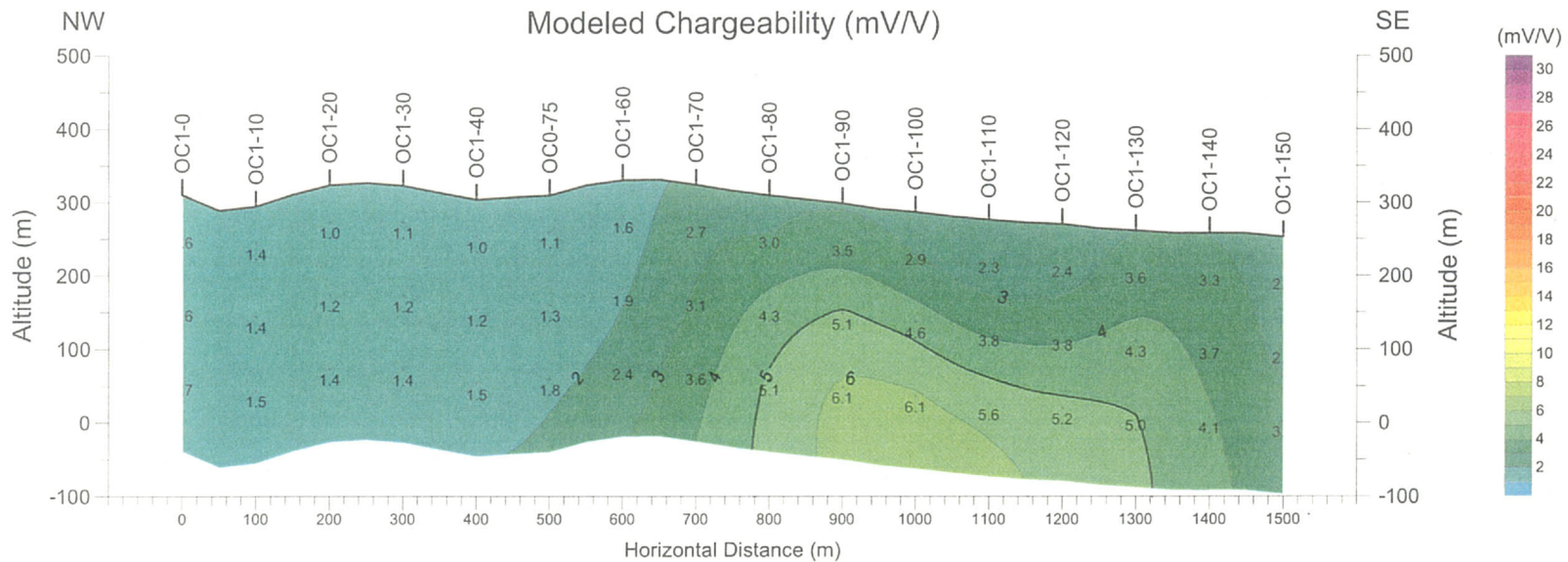
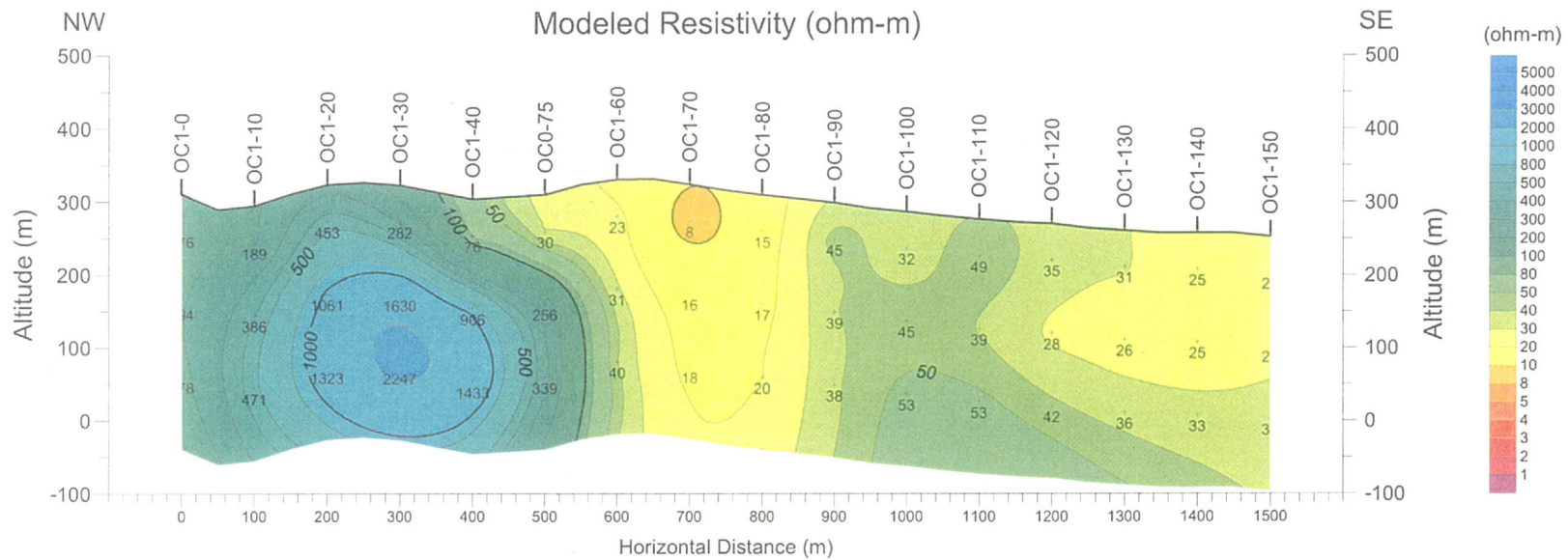


図 93 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 OC1)

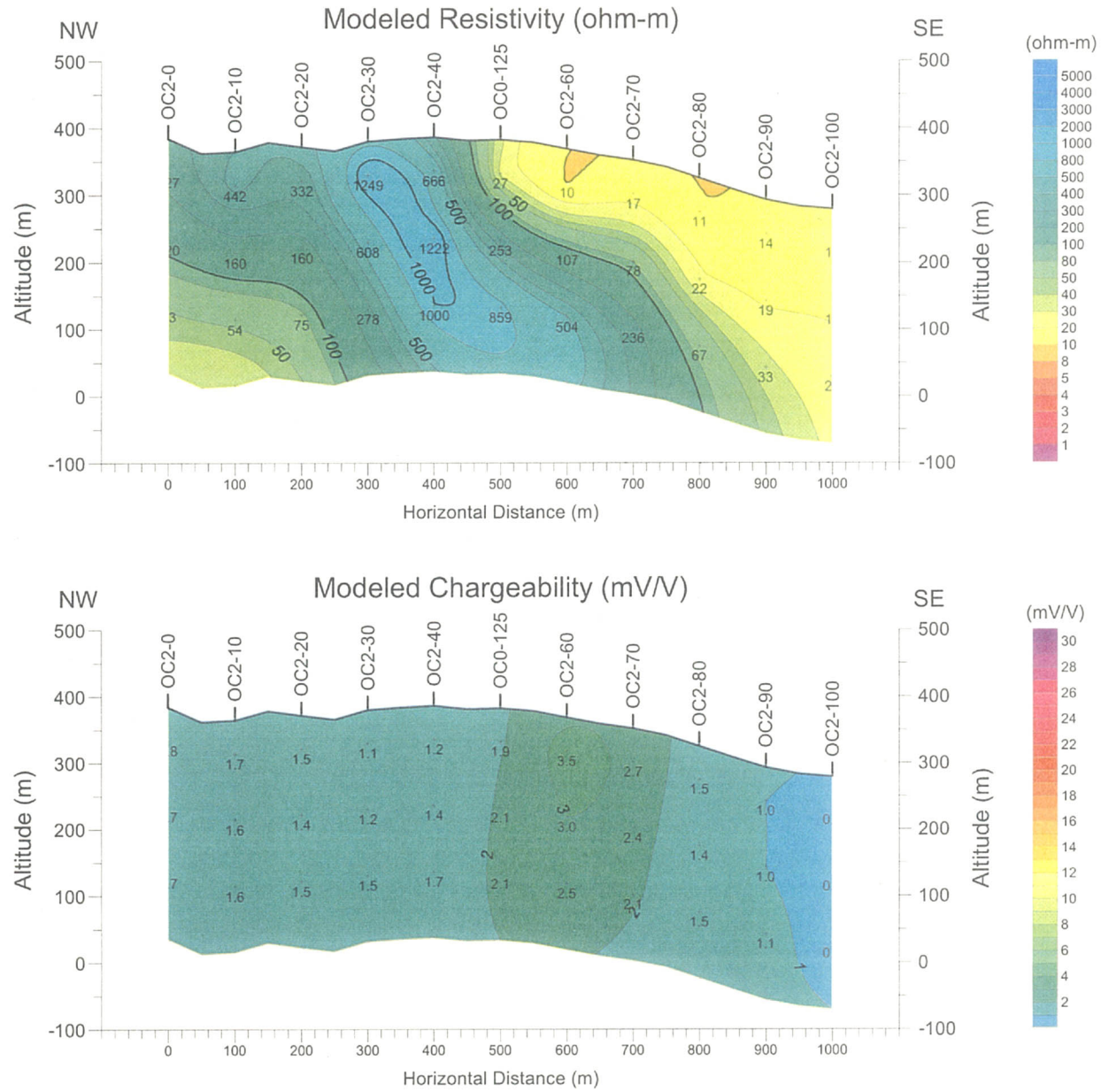


図 94 比抵抗・分極率シミュレーション断面図 (測線 OC2)